

令和6年度 墨田区立第二寺島小学校 学校経営計画・経営報告書（自己評価・学校関係者評価）

作成者 校長 由良 隆

学校教育目標	・よく考えて工夫する子 ・思いやりがあり助け合う子 ・体力のある元気な子 ・ねばり強くやりぬく子
目指す学校像	自己実現を目指す学校
目指す児童像	自分とひとを大切にできる子
目指す教師像	使命感のある教師

○令和6年度 学校経営計画における重点内容
 ・学校教育目標の重点を「思いやりがあり、助け合う子」に置くこととし、道徳科の時間だけでなく本校の学校教育全体を通して、よりよく生きる力の基盤である「思いやりの心」を育てることを重要課題と設定する。
 ・今年度、本校は開校百周年を迎える。そこで「百年の思いやり」というテーマを掲げて、年間を通して思いやりの心の育成を重点基盤とし、本校の百年の歴史を振り返りつつ、夢や希望をもって学校生活を送れるようにする。

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価		
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等
各教科指導等	主體的、対話的、深い学びに向けた授業改善を推進する。 ①タブレット端末を各教科の学習内容に合わせて効果的に活用する	・タブレット端末を活用した校内研究授業と年間3回以上の授業観察を実施する。	4	学校評価における校内研究の肯定的評価回答100%	4	タブレット端末を活用した授業実施率100%	どの学年学級においてもタブレット端末が学習ツールとして定着してきている。	今後、活用の定着率を高めるだけでなく、より効果的な活用方法について研究していく。	B	A	タブレットの活用は今後も継続して活用して欲しい。
			3	学校評価における校内研究の肯定的評価回答80%以上	3	タブレット端末を活用した授業実施率80%以上					
			2	学校評価における校内研究の肯定的評価回答60%以上	2	タブレット端末を活用した授業実施率60%以上					
			1	学校評価における校内研究の肯定的評価回答50%未満	1	タブレット端末を活用した授業実施率50%未満					
	特別支援教育を推進する。 ①特別連絡委員会を中心に個々の児童に合わせた支援のための個別指導計画を作成し合理的配慮のもと体制を整える。	・毎月1回以上の特別支援委員会開催と毎週実施の生活指導夕回を通して、全教職員への情報共有を行う。	4	学校評価における個々の児童の情報共有に係る肯定的評価回答100%	4	特別支援委員会と生活指導夕会の開催率100%	特別支援委員会において支援の必要性とその内容について協議し、生活指導夕会においては児童についての情報共有と対応の仕方について共通理解をもつことができた。	特別支援が必要な児童は増加傾向にある。児童の目線で支援の在り方について協議する必要がある。支援の仕方にも工夫が求められる。	A	A	特別な支援が必要な子供が増えている感があるが、適切に対応してほしい。
			3	学校評価における個々の児童の情報共有に係る肯定的評価回答80%以上	3	特別支援委員会と生活指導夕会の開催率80%以上					
			2	学校評価における個々の児童の情報共有に係る肯定的評価回答60%以上	2	特別支援委員会と生活指導夕会の開催率60%以上					
			1	学校評価における個々の児童の情報共有に係る肯定的評価回答50%未満	1	特別支援委員会と生活指導夕会の開催率50%未満					
	最後までやり通すことのできる児童を育成する。 ①特別活動や学校行事等を通して最後まで取り組むことの良さを味わわせる。	・年間を通した特別活動（縦割り班活動、委員会、係活動、当番活動、登校班）や学校行事を計画的かつ効率的に実施する。	4	学校評価における特活・学校行事の実施に係る肯定的評価回答100%	4	自己肯定感(i-check)が全国平均以上の児童が100%	学校行事を計画的かつ効果的に設定し、これに取り組むことで達成感を味わわせ、最後までやり通すことの大切さを伝えられたと捉えている。	自己肯定感をさらに高めるためには、体験的な活動を通して達成感を味わわせることが大切であると考え。そのような学習活動を工夫して設定していく。	A	A	学校行事を通して子供が育つということを大切にして計画的に行っていただきたい。
			3	学校評価における特活・学校行事の実施に係る肯定的評価回答80%以上	3	自己肯定感(i-check)が全国平均以上の児童が80%以上					
			2	学校評価における特活・学校行事の実施に係る肯定的評価回答60%以上	2	自己肯定感(i-check)が全国平均以上の児童が60%以上					
			1	学校評価における特活・学校行事の実施に係る肯定的評価回答50%未満	1	自己肯定感(i-check)が全国平均以上の児童が50%未満					
いじめを許さない校風の醸成をめざす。 ①いじめ防止方針案に則り、いじめの早期発見早期解決に取り組む。	・いじめ防止対策委員会を中心に教職員全体で取り組み、情報共有のもと即時対応する。	4	定期的ないじめ防止対策委員会の開催率100%	4	学級・学校への満足感(i-check)が全国平均以上の児童が100%	定期的にいじめ防止対策委員会を開催することで、いじめの早期発見と迅速な対応に注力することができた。	学級・学校への満足感がより高まるよう、いじめのない学校を実現するための手立てをさらに工夫していく。	A	A	いじめ0に向けての努力をお願いしたい。	
		3	定期的ないじめ防止対策委員会の開催率80%以上	3	学級・学校への満足感(i-check)が全国平均以上の児童が80%以上						
		2	定期的ないじめ防止対策委員会の開催率60%以上	2	学級・学校への満足感(i-check)が全国平均以上の児童が60%以上						
		1	定期的ないじめ防止対策委員会の開催率50%未満	1	学級・学校への満足感(i-check)が全国平均以上の児童が50%未満						
自分とひとを大切にできる児童を育てる。 ①規範意識や社会性を身に付けた思いやりのある児童を育成する。	・身に付けるべき生活のルールを全職員で確認し、年間を通して段階的に指導していく。	4	学校評価における規範意識の向上に係る肯定的評価回答100%	4	規律と思いやり(i-check)が全国平均以上の児童が100%	学校教育全体で道徳教育を推進することで、相手に対する思いやりの気持ちを育み、決まりを大切にできる態度を育てている。	道徳教育の要である道徳科の授業改善を推進し、児童の道徳性を育む手立てをさらに工夫していく。	B	B	「百年の思いやり」のテーマのもと、今年度は心の教育を推進できたと思われる。	
		3	学校評価における規範意識の向上に係る肯定的評価回答80%以上	3	規律と思いやり(i-check)が全国平均以上の児童が80%以上						
		2	学校評価における規範意識の向上に係る肯定的評価回答60%以上	2	規律と思いやり(i-check)が全国平均以上の児童が60%以上						
		1	学校評価における規範意識の向上に係る肯定的評価回答50%未満	1	規律と思いやり(i-check)が全国平均以上の児童が50%未満						
安心・安全な教育環境のある学校づくりをめざし、自分で自分の身を守ることでできる児童を育成する。	・避難訓練やセーフティ教室、保健指導を通して、自分で自分を守る意識を高め、実践力を身に付けさせる。	4	学校評価における安全指導に係る肯定的評価回答100%	4	学校評価アンケートにおける学校安全に係る肯定的評価回答100%	避難訓練やセーフティ教室、保健指導を適切に実施することで、自分で自分の身を守るという姿勢を育んでいる。	避難訓練については、様々な状況を想定して実施する必要がある。セーフティ教室においても、実生活により即した学習設定を工夫していく。	B	B	大きな地震が起こると言われている現在、子供たちの安全を確保するためにも、避難訓練を中心とした災害対策を今後も推進して欲しい。	
		3	学校評価における安全指導に係る肯定的評価回答80%以上	3	学校評価アンケートにおける学校安全に係る肯定的評価回答80%以上						
		2	学校評価における安全指導に係る肯定的評価回答60%以上	2	学校評価アンケートにおける学校安全に係る肯定的評価回答60%以上						
		1	学校評価における安全指導に係る肯定的評価回答50%未満	1	学校評価アンケートにおける学校安全に係る肯定的評価回答50%未満						

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価				
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等		
	適正な人権感覚をもち、保護者や地域の方々と協力し、共育を推進できる教師のいる学校づくりを推進する。	・担任や副担任が保護者・児童とつながり、相談しやすい雰囲気づくりをしていく。	4	学校が開かれているとのアンケート回答100%	3	4	先生のささえ(i-check)が全国平均値の5ポイント以上	2	「先生のささえ」は全国平均値と同等であった。これに満足することなく、「相談しやすい雰囲気」をさらに醸成する必要がある。	児童理解をより深めるために、教員同士の情報共有の推進やSCとの連携により力を注いでいく。	B	A	今後も子供たちに寄り添った学習活動等を進めてほしい。
			3	学校が開かれているとのアンケート回答80%以上		3	先生のささえ(i-check)が全国平均値の1ポイント以上5ポイント未満						
			2	学校が開かれているとのアンケート回答60%以上		2	先生のささえ(i-check)が全国平均値と同等						
			1	学校が開かれているとのアンケート回答50%未満		1	先生のささえ(i-check)が全国平均値以下						
	「チーム二寺小」として、組織的な学校運営を推進する。	・経営会議、企画会を質的に充実させ、計画的で組織的な提案を行い、実施後は即時見直しを次年度のために行う。	4	学校評価における組織的な教育活動に係る肯定的評価回答100%	3	4	学校評価アンケートにおける教育活動に係る肯定的評価回答100%	3	今年度は特に開校百周年であり、これに関する取組を中心に組織的な学校運営を推進してきたと捉えている。	開校百周年への取組で得られたものを次年度にも引き継ぎ、学校運営を充実させていく。	A	A	開校百周年記念式典においても教職員の協力が見られた。
			3	学校評価における組織的な教育活動に係る肯定的評価回答80%以上		3	学校評価アンケートにおける教育活動に係る肯定的評価回答80%以上						
			2	学校評価における組織的な教育活動に係る肯定的評価回答60%以上		2	学校評価アンケートにおける教育活動に係る肯定的評価回答60%以上						
			1	学校評価における組織的な教育活動に係る肯定的評価回答50%未満		1	学校評価アンケートにおける教育活動に係る肯定的評価回答50%未満						
学校の管理運営	児童の実態を分析し、児童理解の上で計画的・意図的な実践ができる教師のいる学校づくりをめざす。	・指導と評価の一体化を図り、評価基準を明確にし、児童や保護者に分かりやすい提示を進める。	4	学校評価における目指す教師像への肯定的評価回答100%	3	4	学校評価アンケートにおける授業づくりに係る肯定的評価回答100%	3	児童の実態を正確に把握し、児童理解を深めながら、授業改善を図っている。	「個別最適な学び」「協働的な学び」を実現できるような授業改善をさらに行っていく。	A	A	子供たちのためにも、教職員の研修は大切でアル。推進してほしい。
			3	学校評価における目指す教師像への肯定的評価回答80%以上		3	学校評価アンケートにおける授業づくりに係る肯定的評価回答80%以上						
			2	学校評価における目指す教師像への肯定的評価回答60%以上		2	学校評価アンケートにおける授業づくりに係る肯定的評価回答60%以上						
			1	学校評価における目指す教師像への肯定的評価回答50%未満		1	学校評価アンケートにおける授業づくりに係る肯定的評価回答50%未満						
	墨田区GIGAスクール構想を推進する。	・タブレット端末を含めたICTの環境整備を進め、活用研修を実施していく。	4	学校評価におけるICTの肯定的評価回答100%	3	4	タブレット端末を活用した授業実施率100%	3	タブレット端末を使用する授業風景が見慣れたものとなってきている。	ICT機器を不得手と感じる教員に対しても、みに研修やOJTを通して、活用率の向上を図っていく。	A	A	タブレットの活用は今後も継続して活用して行ってほしい。
			3	学校評価におけるICTの肯定的評価回答80%以上		3	タブレット端末を活用した授業実施率80%以上						
			2	学校評価におけるICTの肯定的評価回答60%以上		2	タブレット端末を活用した授業実施率60%以上						
			1	学校評価におけるICTの肯定的評価回答50%未満		1	タブレット端末を活用した授業実施率50%未満						
家庭・地域連携	学校の情報を積極的に発信する。	・毎月の学校便りや学年便り等での情報発信に加えて、HPを充実させる。	4	HPの更新が平均して月に3回以上	2	4	学校評価アンケートにおける通知や連絡に係る肯定的評価回答100%	3	HPの更新については、学校だけでなく給食だよりを毎月更新している。	校務分掌の効率化と活性化を図り、情報発信率を向上させるとともにHPの更新率を向上させる。	B	B	学校の様子を知りたいと思っている方は多くいると思われるので、その期待に応えてほしい。
			3	HPの更新が平均して月に2回以上		3	学校評価アンケートにおける通知や連絡に係る肯定的評価回答80%以上						
			2	HPの更新が平均して月に2回未満		2	学校評価アンケートにおける通知や連絡に係る肯定的評価回答60%以上						
			1	HPの更新が平均して月に1回未満		1	学校評価アンケートにおける通知や連絡に係る肯定的評価回答50%未満						
	保護者や地域の理解や協力を得た教育活動を推進する。	・地域教材や地域人材を活かした学習活動を推進する。	4	地域教材・人材を活かした学習活動の実施が学年3回以上	2	4	学校評価アンケートにおける地域との連携に係る肯定的評価回答100%	2	各学年においてゲストティーチャーによる出前授業を実施している。	地域人材を求めるとのネットワークを構築し、新しい学習活動を展開できるようにする。	B	B	学校と地域が一体となって進めて行く教育活動を期待する。
			3	地域教材・人材を活かした学習活動の実施が学年2回以上		3	学校評価アンケートにおける地域との連携に係る肯定的評価回答80%以上						
			2	地域教材・人材を活かした学習活動の実施が学年2回未満		2	学校評価アンケートにおける地域との連携に係る肯定的評価回答60%以上						
			1	地域教材・人材を活かした学習活動の実施がない		1	学校評価アンケートにおける地域との連携に係る肯定的評価回答50%未満						

○令和6年度 学校経営報告のまとめ（総括）

- ・学校教育目標の重点を「思いやりがあり、助け合う子」に置いたことで、学校全体で「思いやりの心」を育てるという意識が高まりが見られた。今後も続けていくことで、さらに効果が高まることが期待できる。
- ・今年度、本校は開校百周年テーマ「百年の思いやり」を掲げたことで、学校教育目標の重点「思いやりがあり、助け合う子」に迫ることができたと考える。このテーマの継続を考慮することは有益であると捉えている。